

全学投票には反対

体育会主催 公開討論会 中執側見解を公表

体育会主催(渡辺健二委員長)の第一回公開討論会が、二十四日午後二時二十分から駿河台校舎九号教室で開かれた。出席者は各学舎として渡辺委員長をはじめ体育会本部役員六名、質問者には長一学生委員会長代行、西川敏雄、厚生部長、本間風彦学苑会事務局長らが参加、傍聴学生は約五〇〇人であった。

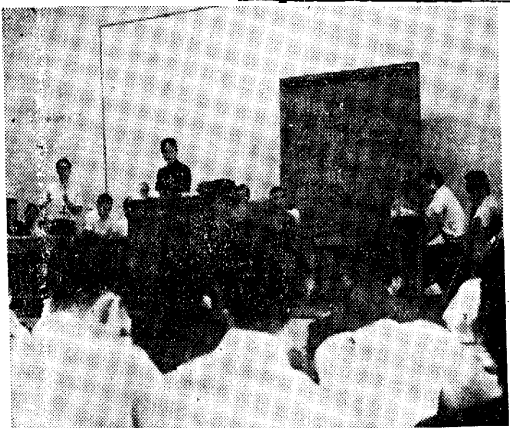
この日は、本学体育会のあるべき姿を各学生と討論してゆく中で論議がゆきゆきと激しくなるといふ感言で充ちたもので、特に今回は「学バリ・スト」のため、進行中の大学封鎖に対する体育会の見解を一般学生に説明させようという意味も含まれている。なお、構成は第一部「体育会の学内にある諸問題についての一見解発表」、体育会将来の在り方についての討論、第二部は「学内諸情勢とこの全学バリ・ストについて」であった。

この日はまず議事に入ったが第一部の見解発表は直ちに第二部に移った。第二部では質問者と答弁者はまさしく逆の形になり、まず体育会側から次の四点について中

至急準備をせよかかると答弁した。続いて学苑会事務局長は全学投票について「大学立法に關して何の知らない学生にも同等の権利を行使する方は無意味である」と反対の意思を示した。

最後に体育会は「一切の暴力を学園から追放せよ」とはならないが、たまたまこの場で起る暴力には「五〇もの暴力を拒否する事もある」と中執防衛論を述べ「これからは全員の代表者会議にも加わり、徹底的に討論してゆく過程で自己形成をはかる」としてあくくた。カサトは討論風景)

これに対して長学生会中執委員長代行は二年間にわたり中執改選をしていなかった事には自己批判する。これは米田隆介委員長や福田直人、西川敏雄などの幹部が国家権力に不当検査されたり、商・文商学部の改選が済んでいない事情もあったからだ。会計監査については確かに昨年(四十三年)度中には会計監査委員会を設置すると約束した。この点、中執としては遺憾であったことを認める。



至急準備をせよかかると答弁した。続いて学苑会事務局長は全学投票について「大学立法に關して何の知らない学生にも同等の権利を行使する方は無意味である」と反対の意思を示した。